

芝草新品種のご紹介

雪印種苗(株) 千葉研究農場

立花 正

1 はじめに

ほぼ10年前までは、芝草がスポーツーフとして利用されている代表的な場所は、ゴルフ場でした。しかし、その後サッカーのJリーグの発足や日本代表の活躍により、メディアを通じて美しい天然芝のグラウンドが、頻繁に紹介されるようになってから、芝草への注目度は急速に高まり、従来“土のグラウンド”が主体だった学校のサッカー場や、市町村営グラウンドを芝生化しようとする動きが、活発に見られるようになりました。あわせて、ガーデニングブームの影響もあり、個人住宅の庭に関しても芝生に対する関心が大きくなっています。しかし、このようなグラウンドや家庭では、ゴルフ場やJリーグのグラウンドのような徹底した管理（散水、刈取り等）は、いろいろな制約があり困難な場面が多いことから、利用する芝草については“より管理のしやすい草種・品種”が求められます。

当社においては創業当初より、各種の作物について“基礎体力の強い品種（暑さ、寒さに対する環境適応性が広く、かつ、各種病気に強い）”の開発を目指しています。芝草についても同様の考え方で試験を行っており、今回はここ2か年の中で開発された“基礎体力の強い4品種”について主にご紹介します。

2 当社における芝草品種の開発

日本は南北に長く、かつ、標高の差による環境の相違があり、また、梅雨から夏への条件も地域によって異なることがアメリカ、ヨーロッパと大きく異なる点です。しかし、芝草品種の開発はア

メリカ、ヨーロッパが主体で、流通品種のほとんどはどちらかで育成されたものであり、日本の環境に全ての品種が適応するとは限らないのが現状です。

そこで、当社では日本国内でも気象環境の異なる北海道（北海道研究農場、輪厚GT試験地）、千葉県（千葉研究農場）、宮崎県（宮崎研究農場）にある4か所の研究農場で芝草の試験を行い、日本の様々な気象に適応する芝草品種を開発しています。

北海道研究農場と輪厚GT試験地では、北海道を中心に府県の高標高地域に適応する、越冬性が良好で芝質のよい品種の開発を、千葉研究農場と宮崎研究農場では、暖地に適する耐暑性や各種病害に強い品種を主体に選抜しています。

3 新品種の特性

以下に前述した研究農場での試験結果を基に選抜した、新品種の主な特性をご紹介します。

①ケンタッキーブルーグラス「アワード」

関東以西で、ケンタッキーブルーグラスなどの寒地型芝草を栽培する上で最も重要なことは、梅雨～夏をいかに密度の低下が少なく生育させることができるかということにあり、アワードは従来の品種に比較して、梅雨～夏にかけての密度の低下が少ない品種です（図1）。宮崎県では、通常でケンタッキーブルーグラスが良好な生育を示すのは、従来の品種では梅雨時期までで、梅雨明けとともに急速に密度が低下し、最後には枯死に至りますが、写真にみえますようにアワードは夏季でも比較的高い密度を保つことが確認されました（写真1）。

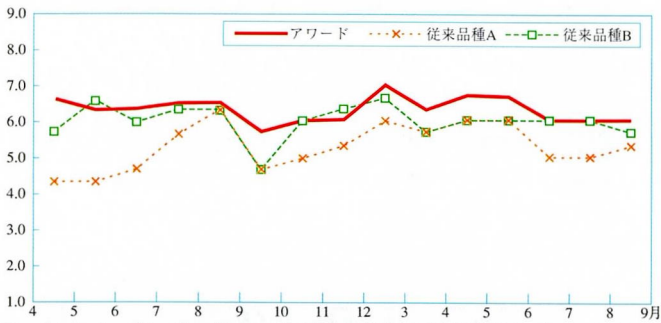


図1 ケンタッキーブルーグラス「アワード」の密度の推移(千葉研究農場;'97年4月~'98年8月)
備考) 密度良好:9~1:不良



写真1 アワード 越夏性試験
左:アワード 右:他社品種
(宮崎研究農場'98. 8月)

また、関東以北、特に北東北～北海道の積雪のある地域では、越冬性が重要なポイントとなります。当社で販売している『リムジン』『パーティティア』は北海道を中心に選抜された越冬性に特に優れた品種です。アワードはこれら2品種に次いで良好であり、寒地でも実用上問題ないことが確認されています。

越夏性、越冬性に優れた品種でも各種病気に罹病しやすい場合は、殺菌剤散布等のメンテナンスが必要となり、結果として“作りづらい品種”となりますが、アワードはダラースポット、ブラウンパッチ等の病害に対して強い抵抗性を示します(写真2)。

②ペレニアルライグラス「アクセント」

2000年春より販売を開始する新品種アクセントは耐暑性、越冬性、耐病性等に優れ、かつ、年間を通して密度が高く、濃緑色の強いターフを形成

する品種です(図2, 写真3)。

ペレニアルライグラスの用途として、他の寒地型芝草との混播や府県でのウインターオーバーシードの利用が主体です。アクセントは耐暑性の強い品種であることから、トランジション(寒地型から暖地型芝草への移行)を目的とするウインターオーバーシードでは、暖地型芝草(特にコウライ芝やノシバ)の密度低下や衰退の原因になりますので、使用しないようにします。このような場合には、ウインターオーバーシード専用のペレニアルライグラス品種「ビビットグリーン」を使用します。

③トールフェスク「アリッド3」

トールフェスクは他の寒地型芝草のケンタッキーブルーグラスやペレニアルライグラスに比較すると、芝質がやや粗い性質を持ちますが、耐乾性、耐病性が強く、かつ、肥料要求量が少ないローメンテナンスな草種として注目されている草種です。特にアリッド3は耐暑性、耐病性に優れ密度が高く、濃緑色の強いターフを形成する新品種として注目されます(図3, 写真4)。

アリッド3は単播での利用によってノシバに近い芝生を形成しますが、より密度の高い芝生を作るためにアワードと混播することもお勧めします。



写真2 アワード ダラースポット, ブラウンパッチの発病が極めて少ない(千葉研究農場'99. 7月)

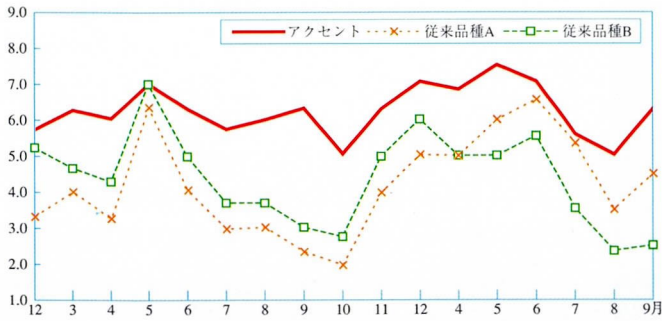


図2 ペレニアルライグラス「アクセント」の密度の推移(千葉研究農場;'96年12月~'98年9月)

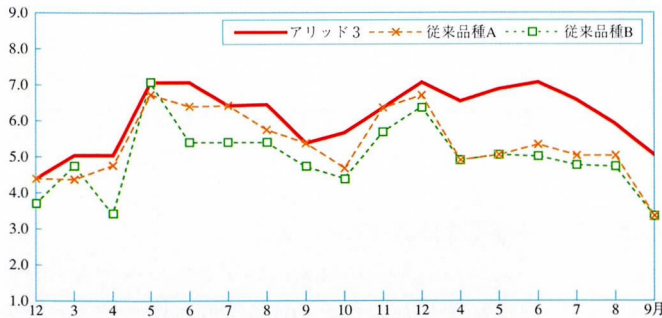


図3 トールフェスク「アリッド3」の密度の推移(千葉研究農場;'96年12月~'98年9月)



写真3 アクセント 葉色は濃く密度の高いターフを形成する(左:アクセント 右:他社品種)

④バミューダグラス「サンデビルII」

ティフトン芝に代表される暖地型芝草のバミューダグラスはノシバ、コウライ芝に比較すると生育が旺盛で、スパイク等による擦り切れに対する抵抗性が高いことからサッカー、野球等のグラウンドでの利用が急速に増えています。しかし、ティフトン芝の芝質は非常に優れるものの、栄養

繁殖性であることから、造成コストが高いことが欠点としてあげられますが、サンデビルIIは種子での造成が可能で、芝質も従来品種に比較して、よりティフトン芝に近い性質を持ち合わせる、注目される品種です(写真5)。したがって、ノシバ、コウライ芝で造成されたグラウンドや公園等で使用頻度が高いことが原因で、密度が低下した芝生への追播(オーバーシード)も可能です。また、ビビットグリーン(ペレニアルライグラス)、フェアウェイ(アニュアルライグラス)を秋季にウインターオーバーシードすることによってエバーグリーンも可能になります。

4 海外での試験成績の利用

冒頭で述べたように芝草品種の開発はアメリカ、ヨーロッパが主体であり、各々の国や地域で公的な機関が、各種の評価試験を行っています。特にアメリカで実施されている、National Turfgrass Evaluation Program(以下NTEP)は広く知られる芝草の評価試験であり、その試験データは毎年公表され容易に手に入ることから、日本の芝草管理者の中にも、品種の選別の主たる資料に利用する方が多くなっています。

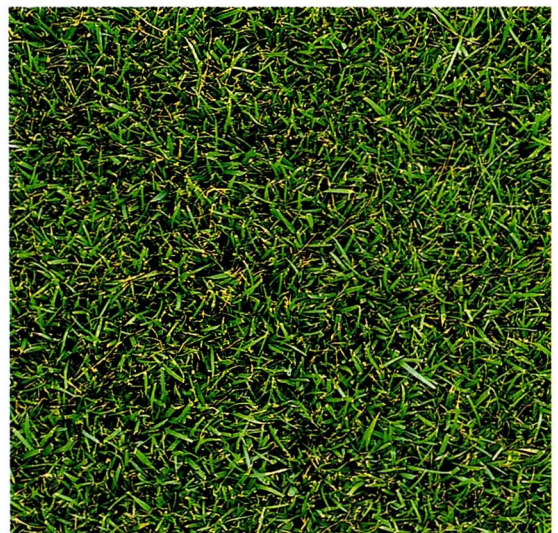


写真4 アリッド3 細葉で濃緑色



写真5 サンデビルII (播種後40日)
細葉で高密度の芝生を形成
(千葉研究農場'98.6月)

NTEPは世界各地で育種された芝草品種をアメリカ国内40箇所、カナダ6箇所のいろいろな環境下で試験を行い評価する機関で、その試験箇所の中には緯度、気温の推移等で日本の気候に近い試験箇所もあり、大いに参考になるデータが多数あることは間違いありません。しかし、日本は四

季がはっきりしており、寒暖の差が大きく、特に梅雨から夏への移行は急激に変化するという特殊な環境下であり、そのような環境はアメリカには少ないものと考えます。従って、芝草品種を選定する上で最も重要なのは、NTEPのデータも参考にしながらも日本の環境下で試験がなされ、しっかりとしたデータがある品種を選定することです。

5 おわりに

基本的なことですが芝草は生きています。そして新しい品種が、異なる新たな環境の中で長く生きていくことができるかどうかの判断は、短期間ではできなことも事実です。そのような基本的で重要なポイントをクリアして販売されるアワード、アクセント、アリッド3、サンデビルIIの4品種を今回紹介しました。

これらの品種が有効に利用され、今後ますます芝生に親しむことができる空間が増えることを期待してやみません。

雪印 推奨 図書 案内

◎酪農家の座右に、教育・試験研究機関で常備してほしい一冊

「目で見える牧草と草地」

A 4判 110頁 山下 太郎編 頒価 2,500円

◎イネ科・マメ科牧草の主要病害を写真入りで解説！

原色「牧草の病害」

A 5判 200頁 西原 夏樹著 頒価 3,000円

◎アルファルファの品種・栽培・病虫害・収穫調製などを網羅！

「アルファルファ（ルーサン）」 — その品種・栽培・利用 —

A 5判 250頁 鈴木 信治著 頒価 3,000円

◎酪農家のバイブル、サイレージ調製には、これ一冊でOK！

微生物のパフォーマンスとその制御「サイレージバイブル」

A 5判 124頁 監修 高野 信雄 安宅 一夫 頒価 1,000円